

蒲生四丁目駅

Osaka Metro まちさんぽ

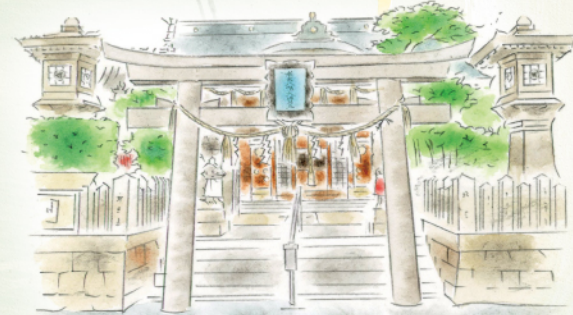
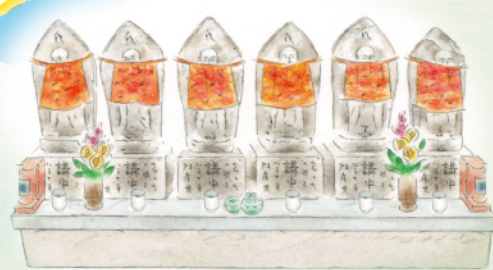
50分 コース

長堀鶴見緑地線・今里筋線 蒲生四丁目駅

蒲生村「がもよん」

なまづえ 鯉江川右岸に がま 蒲が繁茂した農村

鯉江川は周辺低湿地の悪水を排除するために掘られた川で、江戸時代初期には既に存在していました。その右岸の堤防上に形成されたのが蒲生村で、大坂市中から大和へ向かう街道が通じていました。名産は蒲という水草で、蒲穂は薬用にされました。



- スタート駅 長堀鶴見緑地線 今里筋線 蒲生四丁目駅 ④号出口
- 1 蒲生村「がもよん」にぎわいプロジェクト
 - 2 蒲生村・蒲穂のゆかりの地パネル
 - 3 若宮八幡大神宮
 - 4 佐竹義宣本陣跡碑 大坂冬の陣
 - 5 三郷橋丸木舟出土跡 鯉江川跡
 - 6 古堤街道(大和街道)
 - 7 蒲生橋親柱
 - 8 蒲生墓
 - 9 道標
- ゴール駅 京橋駅 長堀鶴見緑地線

蒲生村があった蒲生堤やさらに南の旧大和川(寝屋川)の堤防上で激しく戦われたのが大坂冬の陣の今福・蒲生の戦いです。豊臣方は蒲生堤(今福堤)を切断し、4重の柵を設け、淀川の堤防を切つてあたり一面を水没させ、徳川方の進軍を阻もうとしました。大坂冬の陣最初の陸戦のはじまりです。

蒲生四丁目駅
50分
コース

Osaka Metro まちさんぽ

長堀鶴見緑地線・今里筋線 蒲生四丁目駅

蒲生村「がもよん」

なまづえ がま 鮫江川右岸に蒲が繁茂した農村

鮫江川は周辺低湿地の悪水を排除するために掘られた川で、江戸時代初期には既に存在していました。その右岸の堤防上に形成されたのが蒲生村で、大坂市中から大和へ向かう街道が通じていました。名産は蒲という水草で、蒲穂は薬用にされました。

スタート駅

約 50 分

ゴール駅

長堀鶴見緑地線・今里筋線蒲生四丁目駅 ④号出口

長堀鶴見緑地線京橋駅

1 がもよん にぎわいプロジェクト

蒲生四丁目駅周辺は通称「がもよん」と呼ばれて、戦前に建てられて戦火を免れた長屋・古民家が多く残って独特の情緒を漂わせています。「がもよんにぎわいプロジェクト」は、下町の風情や古い町並みを生かしつつ、古民家を飲食店や雑貨店などに再生するプロジェクトです。すでに30数軒の店舗がおしゃれな空間をつくりだし「2000世帯以上の住民が流入した」と評価されて、公的資金に頼らない都市再生の「がもよんモデル」として注目されています。



2 蒲生村・蒲穂のゆかりの地パネル

すぐ南に流れる鮫江川の右岸に沿って形成された集落が蒲生村で、川の周囲は低湿地なので村は一段高い蒲生堤の上に開けました。井路川が縦横に走った水郷農村で、特産品は湿地に育つ良質の蒲。蒲穂は火傷薬や蒲団の材料に用いられ、蒲生の地名もここから生じたとされています。



3 若宮八幡大神宮・大坂冬の陣 佐竹義宣本陣跡碑

若宮八幡は仁徳天皇を祭神として、社殿が西向きなので西向八幡とも呼ばれています。大坂冬の陣では、徳川家康は大坂城を攻略しようとしてここへ佐竹義宣軍1,500の兵を送りました。迎え撃つ豊臣軍は蒲生堤の3カ所を切断し、4重の柵を設け、さらに淀川を決壊させてあたりを2mほど水没させ、矢野正倫と飯田家貞がそれぞれ300の兵で応戦しました。慶長19年(1614)11月26日夜明け、若宮八幡に本陣を構えた佐竹軍が攻撃を開始し、堤上の柵を次々に撃破して、防戦一方になった矢野と飯田はあえなく討死しました。そこへ豊臣軍は木村重成が大坂城から出撃して戦況は膠着状態になり、さらに後藤基次が参戦して佐竹軍を押し戻しました。佐竹義宣は大和川対岸の鴨野で戦っていた上杉勢に救援を求め、戦間は激しさを増しつつ次第に徳川軍の優勢に傾き、豊臣軍は大坂城へ撤退しました。



4 蒲生行者講

行者講とは、奈良県の大峰山で厳しい修行を行う信仰者の集まりで、江戸時代に蒲生行者講がうまれました。ここに祀られている不動明王、役行者、弘法大師像は大正末期頃から祀られて、まちの守護神としていまでも篤く信仰されています。



5 鮫江川跡・三郷橋丸木舟出土跡

鮫江川は、北河内の低湿地帯に滞留する悪水を排除するために、江戸時代以前に掘られた堀川で、名前は鮫が多く棲んでいたからといわれています。近隣農村の井路川が三郷橋(今福交番付近)で合流して鮫江川となり、最大川幅30mで寝屋川にほぼ並行して流れ、天満橋の手前で大川(淀川)に注いでいましたが、昭和5年(1930)、寝屋川の改修で埋め立てられました。大正6年(1917)、三郷橋近くの川底から、古代人が水運に用いたとされるクスノキをくりぬいた丸木舟が発掘されました。



6 古堤街道(大和街道) 7 蒲生橋親柱

鮫江川の堤防上の道が古堤街道で、大和道・野崎道とも呼ばれて大坂と奈良を結ぶ幹線道路でした。野崎観音詣でに土手道を行く人と川を船で行く人が掛け合う上方落語がよく知られています。街道筋を歩くと、埋め立てられた鮫江川跡の道路が堤防上の街道より階段状に低くなっていることがわかります。京橋駅寄りに、鮫江川に架かっていた蒲生橋の親柱も残っています。



8 蒲生墓

大坂の陣後に荒廃した大坂の復興事業が実施され、そのひとつに市内に散在していた墓地を整理集約する施策がありました。大坂七墓がこうして生まれ、大坂庶民のあいだに七墓参りが流行しました。七墓とは、千日前・小橋・梅田・濱・葎原・薦田と蒲生で、蒲生と濱の墓地が現存しています。



9 道標

そもそもは古堤街道と京街道の分岐点に建てられた江戸時代の道標で、京阪モール建設のときにこの地に移転しました。「右大和ならのざき」「左京みち」と刻まれています。



文中の「おおさか」表記には、一般呼称や明治以降については「大阪」、江戸時代以前については「大坂」を使っています。なお、掲載している情報は2024年8月時点のものです。内容は変更されている場合があります。

発行：Osaka Metro

協力：一般社団法人大阪あそ歩委員会 (お問い合わせ先)大阪あそ歩 info@osaka-asobo.jp

後援：歴史街道推進協議会

このコースや他のコースの〈ガイド付きまち歩き〉については、下記の「大阪あそ歩」のホームページをご覧ください。

<https://www.osaka-asobo.jp> または で検索

ご注意

※まち歩きには歩きやすい服装で、足下や車などの往来に十分注意し、事故のないように各自で責任をもって行動してください。

※プライバシーにかかわる場所での写真撮影や大声での談笑はご遠慮ください。住宅敷地内での写真撮影は厳禁です。

ご案内

※駅スタンプは駅長室付近に設置しています。参加記念にぜひ押印してください。

駅スタンプ押印欄



毎月第1金曜日発行